

令和5年度 事業報告書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会 令和5年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「令和5年度事業報告」を致します。

令和5年4月1日より令和6年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳を進めている。令和5年度は、インドの公用語でありインド・マハーラーシュトラ州等で9,000万人の話者がいるマラーティー語への翻訳を終え、『マラーティー語仏教聖典』としてホームページに公開した。翻訳言語数は47言語となった。

また『和文仏教聖典』の詳細な典拠の確認に基づいた現代的な内容にするための本文の見直し、付録部分の仏教史の最新情報への更新等、全面的な改訂を終了し、『和文仏教聖典 改訂B6版』として刊行した。

その他2012年版に則した『ポルトガル語仏教聖典』の改訂を終了した。

◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル31軒、海外のホテル29軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた日本からの令和5年度の寄贈冊数は、国内7,403冊、海外

640冊であった。海外協力機関からの寄贈も含めたホテル累計寄贈数は 64カ国、15,835軒・4,174,445冊に至った。

◇聖典ボランティアによるホテルへの寄贈活動の促進について

地域に根差した布教活動を実施している僧侶・寺族の方がたに「聖典ボランティア」として仏教聖典のホテルへの寄贈活動の支援者として参画をお願いしている。

令和5年度、登録僧侶は90名に達し、47都道府県を網羅している。令和5年度の国内ホテル寄贈のうち、新規ホテル7軒290冊、補充ホテル8軒400冊がボランティアの実績である。

◇『簡体字仏教聖典』中国国内頒布について

令和元（2019）年12月に中国にて印刷した『簡体字仏教聖典』（宗教文化出版社刊）10,000冊の中国国内における頒布プロジェクトについて、コロナ禍で止まっていたが、令和5（2023）年10月、K.U.トレーディング株式会社 于平氏を通じて、中国国内9か所の寺院、仏教学院に寄贈した。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を推進するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、令和5年度、大学・短期大学72校、中学校・高等学校87校、保育施設867園を中心に行い、総計で23,473冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、12年間の寄贈数累計は約520,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として11,146冊販売した。

◇インターネットでの「仏教聖典」頒布について

より多くの方がたに、母語で仏教聖典に触れていただくために平成31年3月より各国語仏教聖典のPDFデータをホームページに掲載し、全世界からのダウンロードが可能となった。令和5年度も世界103ヶ国からさまざまな言語の聖典が9,705件ダウンロードされ、これまでの総ダウンロード数は29,652件となった。

また令和5年度は「仏教聖典」電子書籍版292冊、オーディオ版「仏教聖典」27冊を販売した。

◇「仏教聖典」のブータン王国への頒布について

ブータン王国に、『ゾンカ語仏教聖典』10,000冊を送付した。2024年4月に行われる贈呈式の後、学校・寺院等に寄贈する予定である。

◇『さとりの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さとりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を行い、令和5年度は21,842冊を寄贈した。平成28年度からの頒布開始以来、教育機関への8年間の寄贈数累計は約212,000冊に達した。また全国寺院や書店などに1,938冊を販売した。

◇『ブツダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブツダのおしえ』は、外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして好評を博している。令和5年度は全国の有名観光寺院やミュージアムを中心に、日本語版約73,000冊、各国語版約21,000冊を寄贈した他に、日本語版・英語版合計で約6,000冊を販売、合計100,314冊を頒布した。平成23年からの累計寄贈冊数は約1,324,000冊となった。

また、国際視覚障害者援護協会の協力により、和文『ブツダのおしえ』を点字訳し、全国の盲学校、点字図書館等135ヵ所に寄贈した。

2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため、「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。

令和5年度は『大般涅槃経』と『法苑珠林』の一部の翻訳を部分受領した。

また『金剛針論・華嚴一乗教義分齊章・般若心経秘鍵』を11月に刊行。『中阿含経(4)』と、『法苑珠林(6)』を3月に刊行した。

現在までに部分受領典籍を含めた97典籍を70巻の「英訳大蔵経」として出版し、23典籍が翻訳進行中である。

◇「英訳大蔵経」テキストTEI化について

TEI(Text Encoding Initiative)とは人文学資料デジタル化の世界基準でテキストのメタデータをインターネットで効率的に共有する規格である。この基準に準拠した英訳大蔵経のデータ作成を行うため、SAT大蔵経テキストデータベース研究会、人文情報学研究所の協力のもと作業を進めている。令和5年度は『弥勒下生経』のTEI化を終了した。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、全国の寺院、学校、保育園等に頒布している。

令和5年度は、「一日一訓カレンダー」六波羅蜜シリーズ4冊目の『精進』を刊行。壁掛け型・卓上型を製作し、合計約126,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『精進—不断の努カー』（執筆者 田中ケネス氏、鈴木隆泰氏、細川晋輔氏）を教化教材として刊行し、約33,000冊を全国の寺院に頒布した。

◇『日めくりブツダせいかつ2』発刊について

好評を博した『日めくりブツダせいかつ』の第2弾として、「こころが軽くなるブツダのおしえ」をテーマに『日めくりブツダせいかつ2』を10月に刊行した。主に寺院などに約23,000部を頒布した。

◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2025年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第10回フォトコンテストーほとけの心」を開催した。令和5年1月から令和5年8月末までの応募期間中に755件2574枚が集まり、令和5年9月19日にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは令和6年7月上旬発行予定。

また「第9回フォトコンテスト入選作品の写真展」を東京の築地本願寺（令和5年4月11日-6月4日）、京都の平等院（令和5年6月7日-8月27日）、宮城の瑞巖寺（令和5年9月1日-10月23日）にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の8月3日に紙芝居作家で実演家の本多ちかこ氏による紙芝居会を開催し、宇治市の私立幼稚園2園（50名）を招待し、紙芝居を披露した。翌8月4日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

令和5年度は3会場合わせて期間中、約49.3万人の観光客が来場、入選写真と文言の書を鑑賞した。

◇「釈尊絵伝絵画展」について

令和5（2023）年5月12日から5月21日の期間、北野カルチュラルセンター（長野市）において「野生司香雪展」を長野市仏教会と共催で開催した。

インド・サールナート初転法輪寺の釈尊伝壁画の下絵（曹洞宗大本山永平寺所蔵）、当協会所蔵『釈尊絵伝』原画7点、その他、画伯が長野で手掛けた作品を展示した。期間中1600名以上が来場し、お土産に『仏教聖典』を配布した。

またオープニングイベントとして、5月13日、同会場にて、平等院 神居文彰住職による記念講演を開催し、60名が聴講した。講演の様子は仏教伝道協会公式YouTubeチャンネルで公開している。

◇「こころの絵本シリーズ」読み聞かせ映像YouTube公開について

合計発行部数 23万部以上となった「こころの絵本シリーズ」を、より多くの方がたに知っていただくため、読み聞かせの映像をYouTubeに公開した。令和5年度は『ぼくのおまいりがながーいわけ』を公開した。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けに仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した冊子『とってもやさしい はじめての仏教』は、令和5年度は法事用に表紙を新たにした和文版を作成し、葬祭施設等に約32,000冊を寄贈した。その他通常の和文59,000冊と、英訳版・中国語繁体字版・中国語簡体字版・スペイン語版 約32,000冊を海外協力機関、寺院やミュージアム、観光案内所などを中心に寄贈した。また、日本語版 英語版9,000冊を販売、合計 132,000冊を頒布した。平成27年度からの累計頒布冊数は約899,000冊となった。また、日本語版・英語版の電子書籍を無償公開しているが、令和5年度には952件がダウンロードされ、累計ダウンロード数は10,652件となった。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

令和5年度はHee eon Pak氏（パク・ヒーオン氏、韓国国籍、筑波大学）、Gao Mingyuan氏（コウ・ミンゲン氏、中国国籍、早稲田大学）の2名に奨学金支給を実施した。

受給期間終了を前にコウ氏から1年間の延長申請の申し出があったため、本人および担当指導教授から次年度の研究計画や延長の必要性の説明をうけ事務局および委員会で検討した結果、1年間の延長を認め、令和6年度も引き続き同氏への奨学金を支給するものとした。

また、令和5年度は令和6年度奨学生募集のため、メール等を通じて海外の大学や研究機関を中心に留学生奨学金応募要項を送付し、またホームページでの一般公募に合わせて8名の応募があり、令和5年10月2日に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Jackson Cole Macor氏（メイコー・ジャクソン・コール氏、アメリカ国籍、駒澤大学）、Seongil Park氏（パク・ソンイル氏、韓国国籍、東京大学）の2名を選出した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者または学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

令和5年度は中山慧輝氏（ドイツ・ライプツィヒ大学、3年留学）への1年目の奨学金支給を実施した。

また令和5年度は令和6年度奨学生募集のため、国内の大学や研究機関へ留学生奨学金募集開始のご案内およびポスターを約230通送付、またホームページでも一般公募し、結果3名の応募があり、令和5年10月2日に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、安川真由氏（オーストリア・ウィーン大学、1年留学）を選出した。

◇「奨学生交流会」開催について

来日中の外国人奨学生およびその指導教授、これから留学する、または既に留学を終え帰国した日本人奨学生など開催時に日本に滞在している奨学生（元奨学生を含む）を対象に、奨学金審査委員のご同席のもと、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただく目的で「奨学生交流会」を開催している。新型コロナウイルスの世界的感染拡大の状況を受け開催を見送っていたが、令和5年7月7日に4年ぶりに当協会にて開催した。出席者は奨学生、担当教授、奨学金審査委員など計17名であった。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった個人または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる個人または団体に「仏教伝道文化賞沼田奨励賞」を贈呈する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

令和5年度は、4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書を送付、ホームページでも周知を図り、仏教伝道文化賞に23通、沼田奨励賞に17通の推薦書を受領した。

この推薦書をもとに、令和5年7月27日、仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、それぞれ下記の1名に賞を授与する事を決定、同年10月19日、第57回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金と記念の盾を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

- ・ 仏教伝道文化賞（賞金500万円） 今枝由郎 氏（歴史文献学者）
受賞理由：フランス国立科学研究センターにて チベット・ブータン
歴史文献学の分野で多大な業績。国内外で最先端の仏教研究に
献身。
- ・ 沼田奨励賞（賞金300万円） 藤田一照 氏（曹洞宗僧侶）
受賞理由：米国での坐禅指導の経験から英語を駆使して禅の精神を現代人
に伝え、宗派を超えて坐禅の実修を指導。

3. 助成事業に関する事項

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。令和5年度は、令和5年1月16日（月）に開催された助成金審査委員会の決定に基づき、以下の法人・団体に対して、国内13,830,000円、海外€ 113,130（17,197,916円）、CA\$ 240,000（24,168,000円）、SG\$ 6,500（658,450円）、NT\$250,000（1,183,000円）、740,000円の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈A. 沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金〉

※申請無し

〈B. 海外協力機関活動支援助成金〉

アジア仏教伝道協会、台湾仏教伝道協会

〈C. 団体支援助成金〉

日本印度学仏教学会、特定非営利活動法人鎌倉てらこや、
公益財団法人中村元東方研究所

〈D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

公益財団法人全国教誨師連盟、H1法話グランプリ実行委員会、全国日蓮宗青年会

〈D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動〉

龍谷大学龍谷ミュージアム、公益財団法人日独文化研究所

KoPhil（比較哲学・学際教育学会）、

Numata Center for Buddhist Studies（ハンブルク大学沼田仏教学センター）

〈D. 事業支援助成金 - D-3. 仏教文化財保護活動〉

※申請無し

〈国内・継続分〉

東京藝術大学大学院

〈海外・継続分〉

ライデン大学、マクマスター大学、

エト ヴェシュ・ローランド(ELTE)大学仏教研究センター、ウィーン大学

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇ 仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の方々に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催。平成28年度からは英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として「仏教英語ガイド」プログラムとして講座を実施してきたが、令和5年度より、より幅広い人達に英語を通じた仏教との出会いを提供するため、3名の講師によるチェーンレクチャー講座としてリニューアルを行った。各講師には異なるテーマで3回ずつ講義をしていただき、お釈迦さまから日本仏教までを網羅できる講座とした。参加者の内訳は次の通り。

PART1からPART3まで通年申込み：会場24名、オンライン72名。

Part1のみ申込み：会場4名、オンライン10名。（通年、PART1のみ合計110名）

PART2のみ申込み：会場5名、オンライン21名。（通年、PART2のみ合計122名）

PART3のみ申込み：会場30名、オンライン54名。（通年、PART3のみ合計180名）

令和5年度の概要は以下の通り。

日程	テーマ	講師名
PART 1	英語で学ぶブッダの教え	大來尚順氏
第1回 4月27日(木)	仏教のはじまり	(浄土真宗本願寺派
第2回 5月25日(木)	ブッダのさとり	超勝寺住職、翻訳家)
第3回 6月29日(木)	ブッダの教え	

PART 2 第1回 7月20日(木) 第2回 8月10日(木) 第3回 9月14日(木)	英語で学ぶ日本仏教 大乘仏教とは？ 日本仏教の世界観 日本における 大乘仏教の展開	リサ・グランバック 氏 (龍谷大学講師)
PART 3 第1回 10月5日(木) 第2回 11月2日(木) 第3回 12月7日(木)	英語で学ぶ『般若心経』 英語で『般若心経』① 英語で『般若心経』② 英語で『般若心経』③	藤田一照 氏 (曹洞宗僧侶)

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

令和5年度は6月28日～30日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「弘法大師の仏道～お遍路に学ぶ」をテーマに掲げ、真言宗善通寺派 総本山善通寺(香川県)を会場に「第51回実践布教研究会」を開催した。初めての四国での開催だったが、宗派を超えて僧侶・寺族ら34名が参集した。

開講式では菅智潤法主猊下より励ましのお言葉を頂戴し、中嶋孝謙氏先達のもと、四国八十八ヶ所霊場第71番札所から第77番札所までを巡拝する七ヶ所参りを体験、安藤誠啓氏の解説による善通寺諸堂の拝観、秋山寛淳氏ご指導による阿字観の実践等、中身の濃い研究会となった。分科会では「障がい者への布教伝道」というテーマで討議し、理解を深めた。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。令和5年度はご講師に名取芳彦氏(もっとい不動 密蔵院住職・真言宗豊山派)、新たに松本智量氏(延立寺前住職・浄土真宗本願寺派)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集した。計10回開催、のべ179名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。令和5年度はご講師に一楽真氏(大谷大学学長)、千葉公慈氏(東北福祉大学学長)を招き、ホームページ等で告知し参加者を募集。計10回開催、のべ273名の参加があった。また講義後に講師を囲んで懇親会(参加費1000円)を開催、計10回90名が参加した。

経営に活かす会、生活に活かす会の「合同研修会」は、令和5年4月17日、「小湊

鉄道トロッコ列車で行く 養老溪谷の旅～宝林寺を訪ねて」と題し、観光バスとトロッコ列車を貸し切り、経営に活かす会講師 千葉公慈先生のご自坊を参拝した。27名（参加費9000円）が参加し、法話をいただき、坐禅を体験した。

◇BDKシンポジウムについて

令和5年度は下記の3回のシンポジウムを企画、実施した。

各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

令和5年度第1回BDKシンポジウム（通算32回目）

テーマ：「石仏の魅力とフォト法話」

開催日時：令和5年7月13日（木） 18:00～20:00

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：楳村修治 氏（写真家）

高橋直暉 氏（高野山真言宗僧侶、写真家）

本シンポジウムは一日一訓カレンダーフォトコンテスト「ほとけの心」10周年記念として開催。楳村氏は「石仏の魅力～撮り方のコツ」と題し、長年のフィールドワークで培った経験や知識を、実際の写真をスライドに映しながら講演。高橋氏は「フォト法話～いのちを撮る」と題し、昆虫を中心とした生き物のありのままの姿を切りとった躍動感あふれる写真を用い、撮影テクニックのみならず、僧侶兼写真家として撮影の心構えを講演いただいた。なお講演の様子は字幕付きで、YouTube仏教伝道協会チャンネルにて公開。

会場参加21名、オンライン参加25名。

令和5年度第2回BDKシンポジウム（通算第33回目）

テーマ：「人生のみちしるべ -仏教者を支えた言葉-」

開催日時：令和6年1月27日（土）14:00～15:30

会場：仏教伝道センタービル（会場、オンライン同時開催）

講演者：釋 徹宗 氏（浄土真宗本願寺派如来寺住職、相愛大学学長）

当協会発行の『みちしるべ 布施』の執筆者である釈徹宗氏を講師にお招きし、「人生のみちしるべ—仏教者を支えた言葉」と題し、釋氏の支えとなった7つの言葉が紹介され、「仏教には、人生の指針となる言葉がある。多くの言葉と出会ってほしい。またそのような言葉と出会えそうな場所に足を運んでいただきたい」と「言葉の持つ力」の大きさについて自身の体験を交えて講演。

会場参加56名、オンライン参加50名。

令和5年度第3回BDKシンポジウム（通算34回目）
 テーマ：「新仏教教団を学ぼう」
 開催日時：令和6年 2月8日（木） 18:30～20:30
 会場：浜離宮朝日ホール小ホール（会場、オンライン同時開催）
 講演者：島藺進 氏（東京大学名誉教授）
 岡野正純 氏（孝道教団統理）
 庭野統弘 氏（立正佼成会主席）
 西川勢二 氏（真如苑教務長）

本シンポジウムは、令和5年度開催の連続講座「新仏教教団を学ぼう」の講師が全員登壇し、連続講座での発表を踏まえて「新仏教教団は伝統仏教の何を引き継ぎ、何を特徴としているのか（連続性と独自性）」を中心に議論した。また、「来世とは何か」、「死後どうなるのか」など各教団の指導的な立場の登壇者が討論したことで各教団の考えの違いが明確になり、互いの信仰心を尊重し、異なる認識の上にとどのような価値観ならば共有できるかを発信する機会となった。

会場参加51名、オンライン参加69名。

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただくことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時30分まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は高野山真言宗の僧侶でヨガインストラクターのMOMO氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践、瞑想を交えた講座を会場参加、オンライン参加同時にて開催した。令和6年3月にはケン・ハラクマ氏を特別講師として招いた。

令和5年度ののべ参加人数は会場参加320名、オンライン参加160名。

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

平成28年度より一般の方がたを対象に、日本仏教の宗派を毎月ひとつ取り上げて各宗派の基本的な教えや宗祖や著名な僧侶について解説する、仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を開講している。

令和5年度は会場を首都圏から大阪駅近辺に移し、関西圏の方々に来場いただいた。オンライン併用することで新たな受講者が多く増えた。会期は4月から11月まで、月1回（午後6時30分から午後8時30分まで）の全8回。

令和5年度ののべ参加人数は会場参加270名、オンライン参加603名であった。

令和5年度の開講概要は以下の通り。

開催日程	宗派・宗祖	講師名
4月25日（火）	天台宗・最澄	小林恵俊 氏（天台宗正明寺法嗣）
5月30日（火）	真言宗・空海	天野高雄 氏（高野山真言宗高蔵寺住職）
6月27日（火）	浄土宗・法然	工藤量導 氏（大正大学専任講師）
7月25日（火）	浄土真宗・親鸞	井上見淳 氏（龍谷大学准教授）
8月29日（火）	時宗・一遍	岩田尚登 氏（時宗満福寺住職）
9月26日（火）	臨済宗・栄西	松山大耕 氏（臨済宗妙心寺派退蔵院副住職）

10月24日（火）	曹洞宗・ 道元 瑩山（両祖）	宇野全智 氏（曹洞宗総合研究センター 常任研究員）
11月28日（火）	日蓮宗・日蓮	互井観章 氏（日蓮宗経王寺住職）

また、令和6年2月22日（金）に日本の浄土系三宗派（浄土宗、浄土真宗、時宗）の比較講座を仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」2023特別編「くらべてみた浄土の教え」として会場とオンラインで同時開催した。年間の定例講座のなかでも密接な関係にある三つの宗派について、もう一步深い学びの機会を提供すべく上記三名の担当講師に再登壇していただいた。浄土の教えを顕現した本願寺派神戸別院を会場にして、鼎談形式で解説していただき好評を得た。

会場参加31名、オンライン参加95名。

◇特別坐禅会について

一般の方がたを対象に坐禅とヨガのワークショップ、精進料理を体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を平成28年から5回にわたり開催してきた。6回目となる令和5年度は令和5年6月18日（日）に曹洞宗大本山總持寺にて開催した。ヨガ指導は綿本彰氏を、法話は曹洞宗研究センター研究員の宇野全智氏に依頼し、参加者はヨガ、法話、坐禅、精進料理（希望者のみ）を体験した。参加者88名。

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送を平成30年6月より開始し、令和2年度からは放送時間を15分（毎週土曜日24時15分～24時30分）拡大し令和5年度も継続した。偶数月は僧侶、奇数月は著名人等をゲストに招き様々な角度から仏教を取り上げた。X（旧Twitter）を中心にしたSNSを通じて口コミが広がり番組の認知度がさらに向上した。ポッドキャストで関西圏以外からも視聴可能なため、海外を含めて全国からメッセージが寄せられ、好評を得ている。

またリスナー50人を招待した番組公開収録イベントを10月21日に奈良・東大寺の鏡池の能舞台で開催した。ゲストには俳優の八嶋智人氏と東大寺別当の橋村公英氏を招き、11月17日（日）17時～17時55分の特別番組として放送した。

◇体感する仏教 ～鎌倉編～について

「さまざまな宗派のお寺で実践体験できる」というコンセプトのもと、ひろく一般の方がたに仏教を体験していただく「体感する仏教 ～鎌倉編～」を令和5年12月2日（土）に開催し、14名が参加した。円覚寺では坐禅を体験し、建長寺では「けんちん汁」の由来を聞きながら精進料理を味わったのち諸堂を拝観した。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞2023」について

寺院に設置されている掲示板の標語を撮影して、インターネットのSNS（XやInstagram）に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞2023」を開催した。第6回目を迎えた令和5年度は7月1日から9月30日まで作品を募集。今回も投稿された作品がテレビ・ラジオ・週刊誌など数多くのメディアに取り上げられ、約3ヶ月の応募期間の間に前年を上回る総計4,107作品が集まった。今回の大賞は日蓮宗妙円寺の掲示板（標語内容「ことばだけ 立派な者は敵である」）が選ばれた。

◇オンライン法話会「週刊法話ステーション」について

本企画は、コロナ禍によりお寺でのさまざまな行事が中止や延期を余儀なくされた状況を受けて、令和3（2021）年1月より開始。令和5年度も少しでも多くの方に仏教に触れる機会を増やすべく仏教伝道の原点のひとつである“法話”を広く一般の方がたへお届けするため、ZOOM配信を使用し毎週、各宗派の僧侶に法話をいただいていた。令和3年1月の放送開始から令和6年3月末までの放送回数は計153回。総視聴者数は3,338名（ライブ視聴者平均21.8名）。また、アーカイブを仏教伝道協会公式YouTubeチャンネルより配信しており、令和5年度の視聴回数合計は約12,000回となっている。

◇「先学に聞く」について

令和4年度からの新企画として仏教者（僧籍の有無を問わず85歳以上が目安）へのインタビューを実施し、記事とダイジェスト動画を順次ホームページに掲載している。各種SNSでの広報も展開、YouTube再生回数は3,000回再生を越え、長期の視聴が見込まれる反響を得ている。

インタビュー実施実績は以下の通り。

	インタビュー日	氏名 [生年]	経歴
1	令和4年5月19日（木）	渡邊寶陽 氏 [1933-]	立正大学特別栄誉教授
2	令和4年6月24日（金）	荒牧典俊 氏 [1936-]	京都大学名誉教授
3	令和4年7月15日（金）	宮城泰年 氏 [1931-]	聖護院門跡門主
4	令和4年10月28日（金）	木村清孝 氏 [1940-]	東京大学名誉教授
5	令和4年11月18日（金）	吉田宏哲 氏 [1935-]	大正大学名誉教授
6	令和5年2月8日（水）	北島典生 氏 [1928-]	龍谷大学名誉教授

令和6年3月末までに全てホームページへ公開済み。

◇「こころを豊かにする精進料理教室～食を通じて仏教を学ぶ」について

令和5年度の新企画として食を通じて気軽に一般の方がたに仏教文化・精神に親しんでいただく目的で季節毎に全4回開催した。前後半2時間のプログラム構成で前半は、僧侶による「精進料理とは」の法話をいただき、僧侶考案の精進料理レシピ3～5品について、境田料理長（中国料理三田菩提樹）による調理の実演を見学し、試食を交えながら学んだ。後半は、僧侶より食事に対する心構えについてお話をいただき、椅子坐禅や瞑想などで心を調べ、前半で習ったレシピにプロのアレンジを加えた創作精進料理コースを実食した。

参加者層は20代～80代と幅広く9割が女性の参加者であり、全4回で計80名が参加した。

令和5年度の開催概要は下記の通り。

	開催日	講師名
1	6月9日（土）	飯沼康祐 氏（天台宗福昌寺副住職）
2	9月9日（土）	澤田珠音 氏（臨済宗国泰寺派住職）
3	12月2日（土）	緑川明世 氏（天台宗僧侶）
4	3月9日（土）	浅尾理昌 氏（真宗高田派常國寺衆徒）

◇連続講座「新仏教教団を学ぼう」について

明治時代に新たに成立した日本の仏教教団について学ぶ機会を提供するため、宗教学者による総論、各教団の指導者から教義や成り立ちと展開を学ぶ連続講座「新仏教教団を学ぼう」を開催した。オンラインを利用した首都圏以外からの受講者も多く、伝統仏教教団との接点や違いを知ることのできる講義となった。参加者は会場のべ159名、オンラインのべ191名であった。

令和5年度の開催概要は下記の通り

開催日	テーマ	講師名
10月12日（木）	総論「仏教系新宗教について」	島蘭進 氏（東京大学名誉教授）
11月9日（木）	「孝道教団について」	岡野正純 氏（孝道教団統理）
12月14日（木）	「立正佼成会について」	庭野統弘 氏（立正佼成会主席）
1月11日（木）	「真如苑について－伝統と革新の間－」	西川勢二 氏（真如苑教務長）
2月8日（木）	第34回BDKシンポジウム	全員登壇

◇「手作り線香体験レッスン」について

一般の方がたを対象に、仏教行事に欠かせないお線香を手作りするワークショップ型の講座を令和5年7月8日（土）に開催し、31名が参加した。講師には創香家・香司として活躍する今井麻美子氏を招いた。仏教と香りの関係や香料についての解説の後、参加者は好みの香りを目指して香料と水を混ぜて絞りだし乾燥させて、自作のお線香を持ち帰った。

◇花まつり2023について

令和4（2022）年より仏教伝道協会の花まつり企画として、（公財）全日本仏教会が主催する「花まつりデザイン募集」の入選作品を仏教伝道センタービル1階ロビーに展示している。

令和5年度は「第6回花まつりデザイン募集」の入選作品の原画14点を展示し、（公社）全日本仏教婦人連盟より提供の「花の種」、大和証券株式会社より提供の「サクマドロップス」を配布した。

◇願いの一字コンテスト2024について

新年の願いを漢字一字に込めて応募するコンテストを昨年に続き開催（公募期間：令和5年10月16日～12月15日）。

応募総数83件64文字の中から今回は不穏な国内外の情勢を反映し、心の平穏を願う「穏」の一字を選定し、漢字の発表は令和6年1月5日、伊藤広喜増上寺執事ご臨席のもと、大本山増上寺大殿前広場（東京都港区）にて書家 鈴木猛利氏により揮毫。当日17時まで増上寺境内に展示し、その後仏教伝道センタービルに展示。

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

令和5年度は、9月2日、ロベルト＝シューマン＝ザール（ドイツ・デュッセルドルフ）にて「第21回仏教音楽祭 雅楽と舞楽の夕べ」を開催した。ドイツ「恵光」日本文化センター入仏30周年記念奉告法要にあわせて行われ、築地本願寺雅楽会が雅楽・舞楽を披露し、約500名の聴衆を魅了した。仏教音楽祭の海外開催は今回が初めて。

築地本願寺のパイプオルガン入れ替えプロジェクトは、令和7年9月の完成を目標に製作が続けられている。

3. 三田落語会の事業について

(株)文化放送、(株)エムアイティギャザリングの主催する「三田落語会」に、協賛団体として3公演分（のべ860名参加）の協賛広告費45万円を支出した。

4. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

令和5年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は160件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

令和5年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は157件であった。

III. 事務報告

1. 役員等に関する事項

理事・監事

(令和6年3月31日現在)

役名	氏名	常勤 非常勤 の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	令和5年6月23日(再任) 令和5年6月23日 代表理事、会長再任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	沼田恵明	非常勤	令和5年6月23日(再任) 令和5年6月23日 代表理事、理事長新任	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
常務理事 (代表理事)	青木晴美	常勤	令和5年6月23日(再任) 令和5年6月23日 代表理事、常務理事再任	元株式会社ミットヨ 取締役常務
理事	門脇邦彦	非常勤	令和5年6月23日(再任)	日本空港ビルデング 株式会社名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	令和5年6月23日(再任)	元富士銀行代表取締役 常務
理事	生田忠士	非常勤	令和5年6月23日(再任)	元株式会社ミットヨ 取締役
理事	塩入亮乗	非常勤	令和5年6月23日(再任)	浅草寺本堂部
理事	逸見道郎	非常勤	令和5年6月23日(新任)	浄土寺住職
監事	中野東禅	非常勤	令和3年6月25日(再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	令和3年6月25日(再任)	元第一勧業銀行取締役

※桂紹隆氏は令和5年6月23日をもって理事を退任。

評議員

(令和6年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	中川 徹	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	元株式会社ミットヨ会長
評議員	平田史郎	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	西本照眞	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	石井清純	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	駒澤大学教授 駒澤大学第31代学長
評議員	吉水千鶴子	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	筑波大学教授
評議員	渡邊清春	非常勤	令和3年6月25日 (再任)	株式会社ミットヨ執行役員 財務部長
評議員	三原正資	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	元日蓮宗現代宗教研究所所長
評議員	高山久照	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	公益社団法人日本仏教保育教会理事長
評議員	佐藤和敏	非常勤	令和3年6月25日 (新任)	株式会社共生代表取締役社長

※逸見道郎氏は令和5年6月23日をもって評議員を退任、同日理事に就任。

顧問

(令和6年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勧学

※高島孝範氏は令和5年11月13日ご逝去。

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和5年6月8日（木） （令和5年度第1回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>令和4年度事業報告および収支決算報告の件 仏教伝道センタービル建て替え計画変更の件 仏教伝道センタービル建て替えコンサルタント業者選定の件 評議員会に提出する理事候補者承認の件 桂紹隆氏への非常勤理事退職慰労金支給の件 常務理事の報酬改定の件 令和5年度定時評議員会開催の件</p> <p>【報告事項】</p> <p>令和4年度資産運用報告の件 貸金ベースアップの件</p>	<p>可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 可 決 報 告 報 告</p>
令和5年6月23日（金） （令和5年度第1回臨時）	代表理事の選定ならびに会長、理事長、 常務理事選定の件	可 決
みなし決議に関する 理事会	<p>【決議事項】</p> <p>株式寄附受け入れ受諾の件 （決議があったとみなされた日： 令和5年9月25日）</p>	可 決
令和5年11月21日（火） （令和5年度第2回通常）	<p>【決議事項】</p> <p>沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金、 海外協力機関活動支援助成金の件 諸規則諸規程の制定及び改定の件</p> <p>【報告事項】</p> <p>令和4（2022）年度助成金事業実施評価 報告の件 代表理事の職務の執行の状況の報告</p>	<p>可 決 可 決 報 告 報 告</p>
みなし決議に関する 理事会	<p>【決議事項】</p> <p>定款の変更案を承認し、評議員会に提案する件 評議員会みなし決議の件 （決議があったとみなされた日： 令和6年2月16日）</p>	可 決

令和6年3月25日（月） （令和5年度第3回通常）	【決議事項】 令和6年度事業計画および収支予算書承認の件 役員賠償責任保険契約締結の件 重要な使用人の選任の件 【報告事項】 代表理事の職務の執行の状況の報告 委員会委員委嘱について	可 決 可 決 報 告 報 告
------------------------------	---	------------------------------

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和5年5月30日（火）	令和4年度財産状況および業務執行状況	正確であることを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和5年6月23日（金） （令和5年度定時）	【決議事項】 令和4度事業報告および収支決算報告の件 任期満了に伴う理事改選の件 【報告事項】 令和5年度事業計画および収支予算の件 令和4年度資産運用報告と令和5年度資産運用方針および計画の件 阿純孝評議員退任の件 貸金ベースアップの件 仏教伝道センタービル建て替え計画に関する件	可 決 可 決 報 告 報 告 報 告 報 告 報 告
みなし決議に関する 評議員会	【決議事項】 定款変更の件 （決議があったとみなされた日： 令和6年2月28日）	可 決

以 上

令和5年度事業報告 附属明細書

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和6年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事（理事長） 沼田恵明